

凜々しく ～附属小温故創新～ 2018/1/29 No. 47

受験シーズン到来 学力向上について問い直す

それにしても寒い日が続きます。週末はジョギングを楽しむことにしていますが、この週末は道が凍っていてとても走れる状況ではありませんでした。一方近くの神社へ行ってみると梅の木のつぼみが膨らんでいることに気がきました。寒い寒いといいながらも、少しずつ春が来ていることを自然の息吹から感じます。

26日(金)に上杉地区諸団体合同新年会に参加させていただきました。青葉区長様はじめ、上杉山通小学校、上杉中学校、視覚支援学校の各校長先生、上杉地区に関わる各団体の代表の方々総勢100名近くの参加で賑々しく開催されました。上杉地区の小中学校と比較すると、どうしても地域の方々の結び付きは薄くなりがちですが、本校も同じ地区にある学校として、地域の皆様がいかに温かく子どもたちのことを見守っているかを教えていただく貴重な機会となりました。



さて、中学校では私立学校の入学試験が始まり、いよいよ受験シーズンの到来です。入学試験と言えば学力考査ですが、宮城県の喫緊の課題の1つに「学力向上」があります。

私も附属を離れて12年間県内の学校や行政に勤務させていただいてきたので、このことが宮城県としていかに大きな課題であるか肌で感じてきました。学力向上は宮城県としてだけではなく、直接子どもたちを預かる市や町でも重要な課題として受け止め、予算を付けて教員の研修会を企画したり、独自に人員を配置したりするなど必死で取り組んでいます。そこで、参考にされるのが学力調査で上位校としての実績を残す秋田県や福井県の取り組みです。今も全国から視察が訪れているそうです。

秋田県の取り組みは多数紹介されていますが、中でも『あきたのそちからー授業の基礎・基本ー(秋田県総合教育センター)』は小学校の教員としてスタンダードをコンパクトにまとめられていて大いに参考になります。実は先日、市教研の算数部会において秋田県で行われた東北大会の様子について、学校として統一感のある掲示物が子どもたちの学びの環境に大切なことが分かりました、との報告がありました。

(ちょっと待って・・・)

教員としてのスタンダードは宮城県にも残されています。そうです。宮城教育大学で作成している『教育実習の手引き』であり、宮城県総合教育センターで作成している『新任教員のしおり』です。また、統一感のある掲示と言えば我が附属小の最も大切にしてきたところです。前面の学年目標、学級活動コーナー、生活の3つのめあて、時間割、学校として揃えることの大切さを徹底してきた文化が今も大切に残ってきています。

学力向上に対する秋田県と宮城県の差。そのヒントが先日の千真先生の感じた「出前授業で感じた悔しさ」にあるような気がしてなりません。

(文責：副校長 手代木)